

(様式第8号) (第51条の6、第54条の2、第55条関係)

対象事業完了報告書

令和3年4月19日

長野県知事 阿部守一様

（松本市長 臥雲義尚様  
安曇野市長 宮澤宗弘様  
池田町長 甕 聖章様）

所在地 長野県安曇野市穂高北穂高 1589 番地 2

名称 穂高広域施設組合

管理者 宮澤宗弘

対象事業の実施を完了したので、長野県環境影響評価条例第31条第1項の規定により、下記のとおり送付します。

記

対象事業の名称	穂高広域施設組合 新ごみ処理施設整備・運営事業
対象事業を完了した年月日	令和3年(2021年)2月28日
対象事業に着手してから対象事業の実施を完了するまでの環境の保全のための措置の状況	評価書に基づき実施(詳細は別紙)
対象事業に着手してから対象事業の実施を完了するまでの対象事業の実施状況	別添図面のとおり ○建設工事 平成31年(2019年)3月～令和3年(2021年)2月

(備考) 必要に応じ、事後調査の状況又は環境の保全のための措置の状況に係る図面又は写真を添付すること。

# 目 次

1. 環境保全のための措置の状況	
1.1 環境保全措置状況	2
1.2 環境影響評価準備書に対する知事の意見及び実施状況	4
1.3 施設供用時における環境保全措置内容	5
2. 対象事業の実施状況に係る図面、写真	
2.1 対象事業実施区域の位置図及び工事工程表	8
2.1.1 対象事業実施区域の位置図	8
2.1.2 工事工程表	9
2.2 全体配置図（施設概要含む）、断面図	10
2.3 立面図（工場棟）	11
2.4 現況写真	15
2.5 主要設備の写真、フローシート	17
2.5.1 ごみ焼却施設の主要設備の写真	17
2.5.2 不燃物処理施設の主要設備の写真	18
2.5.3 フローシート（ごみ焼却施設、不燃物処理施設）	19

## 1. 環境保全のための措置の状況

1.1 環境保全措置状況（1/2）

対象	内容	作業位置	環境保全措置	環境保全措置			添付資料	評価書掲載頁	
				種類	実施内容	実施状況			
1 大気質	(1) 工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	P4-1-46	
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導				
		対象事業実施区域	暖機運転(アイドリング)の低減	低減	アイドリングストップの指導、実施状況の管理		2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
			工事用出入り口の路面洗浄	低減	散水による路面洗浄の実施				散水により路面を洗浄した。
2 騒音	(2) 建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	工事用車両荷台のシート覆い	低減	工事用車両荷台にシート覆いの設置	対象事業実施区域内の発生土は全て場内の盛土に用い、搬出はなかったため、粉塵を飛散させるおそれがある工事車両の走行はなかった。	—	P4-1-58	
			工事用仮囲いの設置	低減	周囲に工事用仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
			排出ガス対策型機械の使用	低減	排出ガス対策型機械の採用	排出ガス対策型機械を採用し、排出ガス抑制を図った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
			建設機械稼働時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
3 振動	(1) 工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	P4-2-16	
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導				
		対象事業実施区域	工事用仮囲いの設置	低減	周囲に工事用仮囲いを設置		工事区域には仮囲いを設置した。		2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			建設機械稼働時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する		毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。		2019年4月26日 施工状況等報告書参照
4 水質	(1) 建設工事の土地造成、掘削、舗装工事・コンクリート工事による雨水への影響	対象事業実施区域	沈砂池の設置	低減	沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流	浸透貯水池を設け、場内で浸透を行った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	P4-6-13	
			雨水排水の濁りの監視	低減	降雨時は濁水状況を監視し、状況に応じ濁水を沈降させ、上澄水を放流	期間中の降雨は全て浸透貯留池から場内浸透し、排水を必要としなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。			
			凝集剤による土壌の沈殿促進	低減	放流水質が河川水質を悪化させる恐れがある場合は凝集剤による土壌の沈殿を行う				
			アルカリ排水中和及び流出防止	低減	アルカリ排水の流出を防止する				
5 水象	(1) 工事による影響	対象事業実施区域	掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエロード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	P4-7-15	
			適切な掘削方法の検討	低減	排水にたよらない掘削方法の実施				
			適切な掘削時期の検討	低減	濁水期に掘削を開始		水位が上がる夏季を避けて掘削を開始した。		—
			湧水汲み上げの最小化	低減	湧水の汲み上げ量が少なくなるように、施工期間を短くする		湧水の汲み上げ量が少なくなるように施工期間を4日短くした。		—
			地下水位の監視	低減	地下水位の連続観測を行い、水位を確認しながら施工を行う		観測井の地下水水位が519.6m(湿地の水面標高)を下回らないよう連続監視し、顕著な地下水位の低下が起こらないよう管理した。		—
6 土壌汚染	(1) 工事による影響	対象事業実施区域	建設発生土の全量再利用	回避	発生土を場内の埋め戻し等に再利用	発生土を場内の埋め戻し等に再利用した。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照	P4-8-7	
7 地盤沈下	(1) 工事による影響	対象事業実施区域	掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエロード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	P4-9-4	
			適切な掘削方法の検討	低減	湧水量を抑え、排水にたよらない掘削方法の実施				
8 地形・地質	(1) 工事による影響	対象事業実施区域	掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエロード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	P4-10-5	
			適切な掘削方法の検討	低減	湧水量を抑え、排水にたよらない掘削方法の実施				
			矢板等の設置による崩落防止	低減	掘削面の崩壊を防止する				

【環境保全措置の種類】

回避: 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。  
 低減: 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。  
 代償: 代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

※低振動型建設機械について  
 現在低振動型建設機械の製作は廃止しており、低振動型機械が手配不可能なため、低騒音型建設機械を使用することにより騒音の抑制ができ、かつ振動の抑制を図った。

1.1 環境保全措置状況（2/2）

対象	内容	作業位置	環境保全措置	環境保全措置			添付資料	評価書掲載頁
				種類	実施内容	実施状況		
9 植 物	(1) 工事関係車両の走行による影響	対象事業実施区域	工事前仮囲いの設置	低減	周囲に工事前仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	P4-11-17
			工事区域への散水	低減	土ぼこりの飛散防止のため、工事区域への散水	土ぼこりの飛散防止のため、工事区域へ散水を実施した。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照	
			沈砂池の設置	低減	沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流	期間中の降雨は全て浸透貯留池から場内浸透し、排水を必要としなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。	—	
			アルカリ排水の中和及び流出防止	低減	アルカリ排水の流出を防止する	—	—	
			掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエリート工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			適切な掘削方法の検討	低減	排水にたよらない掘削方法の実施	—	—	
			生育地の保全	回避	できる限り生育地の改変を回避し、生育可能な状態を保全する	クマツヅラの生育地を自然緑地として残置し、生育地の改変を回避した施設配置とした。	2018年10月18日 施工状況等報告書参照	
			個体の移植	代償	生育地の保全が困難な場合、個体の移植を実施	アオガヤツリについて、2020年6月に試験播種を実施し、10月に生育状況の確認を行った。2020年10月に草地環境を維持するための草刈りを実施した。	2021年1月19日 施工状況等報告書参照	
10 動 物	(1) 工事による影響	対象事業実施区域	騒音発生低減	低減	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避ける	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避けた。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	P4-12-29
			振動発生低減	低減	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避ける	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避けた。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			沈砂池の設置	低減	沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流	期間中の降雨は全て浸透貯留池から場内浸透し、排水を必要としなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。	—	
			アルカリ排水の中和及び流出防止	低減	アルカリ排水の流出を防止する	—	—	
			掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエリート工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			適切な掘削方法の検討	低減	排水にたよらない掘削方法の実施	—	—	
			生息地の保全	回避	できる限り生息地の改変を回避し、生息可能な状態を保全する	コウフオカモノアラガイの生息地を自然緑地として残置し、生息地の改変を回避した施設配置とした。	2018年10月18日 施工状況等報告書参照	
			個体の移植	代償	直接影響を受ける種について、生息適地の調査と移植の実施	平成30年11月にヒメカメシの移植を実施。コウフオカモノアラガイは令和3年夏に供用後の生息状況の確認を行う。	2019年1月25日 施工状況等報告書参照	
11 生 態 系	(1) 工事による影響	対象事業実施区域	工事前仮囲いの設置	低減	周囲に工事前仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	P4-13-16
			工事区域への散水	低減	土ぼこりの飛散防止のため、工事区域への散水	土ぼこりの飛散防止のため、工事区域へ散水を実施した。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照	
			騒音発生低減	低減	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避ける	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避けた。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			振動発生低減	低減	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避ける	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避けた。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			地区外流出抑制対策の実施	低減	河川側に側溝を設置する	河川側に側溝を設置した。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照	
			沈砂池の設置	低減	沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流	期間中の降雨は全て浸透貯留池から場内浸透し、排水を必要としなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。	—	
			アルカリ排水の中和及び流出防止	低減	アルカリ排水の流出を防止する	—	—	
			掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエリート工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	
			適切な掘削方法の検討	低減	排水にたよらない掘削方法の実施	—	—	
			12 触 れ 合 い 活 動 の 場	(1) 工事関係車両の走行による影響	対象事業実施区域	搬入出時間の分散	低減	
交通規則の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導				—	—	
(2) 建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	工事前仮囲いの設置		低減	周囲に工事前仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照	P4-15-20
低騒音型・低振動型建設機械の使用	低減	低騒音型・低振動型建設機械の採用	低騒音型機械を採用し、騒音振動の抑制を図った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照				
建設機械の稼働時間の分散	低減	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。	—				
13 廃 棄 物 等	(1) 工事による影響	対象事業実施区域	建設発生土の全量再利用	回避	発生土を場内の埋め戻し等に再利用	発生土を場内の埋め戻し等に再利用した。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照	P4-16-4
			コンクリートくず、金属くず、木くず等の再生利用	低減	コンクリートくず、金属くず、木くず等の再生利用	建設副産物は分別搬出の上再利用を行った。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照	
			現場での分別排出	低減	現場で可能な限り分別排出を行う	建設副産物は分別搬出の上再利用を行った。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照	

【環境保全措置の種類】  
 回避: 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。  
 低減: 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。  
 代償: 代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

※低振動型建設機械について  
 現在低振動型建設機械の製作は廃止しており、低振動型機械が手配不可能なため、低騒音型建設機械を使用することにより騒音の抑制ができ、かつ振動の抑制を図った。

1.2 環境影響評価準備書に対する知事の意見及び実施状況

対象	知事の意見 (工事中に関連する部分について、原文)	事業者の見解 (工事中に関連する部分について、原文)	作業位置	環境保全措置	環境保全措置		
					種類	実施内容	実施状況
全般	施設整備や管理運営について、安全性の確保や環境の保全に最大限配慮するとともに、稼働状況、モニタリング結果等の情報をわかりやすく積極的に公表し、地域住民の安全・安心の確保に努めること。	安全性の確保や環境の保全に最大限配慮して施設準備や管理運営を行います。工事中は、工事の進捗状況やモニタリング結果等を組合ホームページ等で公表します。共用開始後についても、稼働状況や検査結果を組合ホームページ等で公表し、地域の皆さんの安全・安心の確保に努めます。	—	—	—	ホームページで工事の進捗状況を公表します。	ホームページにおいて、2019年1月から2021年2月にかけて、月1回の頻度で工事の進捗状況を公表しました。
水象	地下水について、良好な水循環が行われるよう、水の浸透や蒸発散に関して適切な配慮がなされた施工計画を検討すること。	区域内の雨水排水は地下浸透を原則とし、また緑地は敷地面積に対して最低でも20%以上とすることで、蒸発散や地下浸透を妨げないよう十分に配慮します。	対象事業実施区域	水の蒸発散や地下浸透を妨げないように配慮	低減	敷地面積に対して緑地面積を20%以上確保し、水の蒸発散や地下浸透を妨げない計画とします。外構舗装工事を工事の終盤に実施し、工事中も水の蒸発散や地下浸透を妨げないようにします。	実施設計で緑地面積を20%以上確保しており、計画に沿って施工しました。緑地面積の敷地面積に対する割合は22.56%となりました。外構舗装工事を工事の終盤に実施する計画工程とし、計画に沿って施工しました。
水象	事業実施区域は地下水位が高いことから、現状想定される最大の環境影響を踏まえた上で、最深部の掘削について、地下水位が安定した湧水期に実施すること。	地下水への対策として、プラットホームを3階に設けるなどのできる限り掘削深度を小さくする配慮を行います。また掘削時期については、地下水位が安定した湧水期に開始するよう計画します。	対象事業実施区域	掘削深度を小さくする湧水期に掘削を開始	低減	プラットホームを3階に設置し、掘削深度を小さくする施設計画とします。掘削は地下水が安定する湧水期に実施します。地盤改良(スーパーラップルエリート工法)により排水にたよらない掘削方法を実施します。	プラットホームを3階に設置し、掘削深度を小さくしました。掘削は地下水が安定した湧水期に開始しました。地盤改良(スーパーラップルエリート工法)により排水にたよらない掘削方法を実施しました。
動物	コウフオカモノアラガイについて、できる限り生息地の改変を回避すること。改変を回避できない場合は、類似した生態のカタマメマイの生息地に移植を行うことを検討すること。	コウフオカモノアラガイについては、生息地の改変を回避するよう、施設配置計画及び工事計画を検討します。どうしても回避できない場合は、類似した生態のカタマメマイの生息地を参考に、現地調査を行った上で移植適地を検討し、移植を行います。	対象事業実施区域	生息地の改変回避または移植	低減	緑地を計画し、コウフオカモノアラガイの生息地の改変を回避する施設配置計画とします。	コウフオカモノアラガイの生息地を緑地として残置しました。また、残置部分の立ち入り禁止措置をして施工しました。
景観	事業実施区域は松本・安曇野方面と大町白馬方面を結ぶ幹線となる道路に接しており、道路の屈曲部にあることから視認性が極めて高い。それを踏まえて、施設の設計に当たっては、建物と煙突の形状・意匠・色彩などに十分配慮すること。	幹線道路や周辺の道路、あづみ野ランドからの景観を考慮して、建物と煙突の形状・意匠及び色彩などに十分配慮した設計を行います。	対象事業実施区域	形状・意匠・色彩に配慮	低減	曲面形状の屋根を採用することで、幹線道路や周辺道路から見たときに、あづみ野ランド等の周辺施設と調和したデザインとしました。また、あづみ野ランドの利用者から見える壁面を曲面形状とするとともに、煙突を最も遠くに配置することで、あづみ野ランドから見たときの圧迫感を低減する計画としました。	左記の通り施設計画を行い、計画に沿って施工しました。

【環境保全措置の種類】  
 回避: 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。  
 低減: 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。  
 代償: 代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

【環境保全措置の種類】  
 回避: 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。  
 最小化: 実施規模または程度を制限すること等により、影響を最小化する。  
 低減: 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

### 1.3 施設供用時における環境保全措置内容（1/2）

項目	実施期間	環境保全措置の対象	環境保全措置	評価書掲載頁
大気質	供用後	ごみ搬入車両等の走行	搬入時間の分散	P4-1-62
			交通規制の順守	
			暖機運転（アイドリング）の低減	
	供用後	焼却施設の稼働	排ガス濃度の低減	P4-1-87
			排ガス濃度の監視	
			適正な排ガス処理の実施	
適正な運転管理の実施				
供用後	廃棄物の搬出・処理	場内での焼却残渣の積込	P4-1-93	
天蓋付搬出車両の使用				
騒音	供用後	ごみ搬入車両の走行	搬入時間の分散	P4-2-30
			交通規制の遵守	
	供用後	施設の稼働	低騒音型の設備機器の使用	P4-2-42
			騒音の大きい機器の屋内配置	
振動	供用後	ごみ搬入車両の走行	搬入時間の分散	P4-3-23
			交通規制の遵守	
	供用後	施設の稼働	低振動型の設備機器の使用	P4-3-29
			制振構造等の採用	
低周波音	供用後	施設の稼働に伴う低周波音	低周波音発生機器の屋内への配置	P4-4-9
			設備機器の防振対策	
悪臭	供用後	廃棄物搬入車両の走行に伴う悪臭	収集業者の車両の洗車の徹底	P4-5-8
	供用後	焼却施設の稼働に伴う煙突排出ガスによる悪臭	適切な排出ガス処理の実施	P4-5-11
	供用後	焼却施設の稼働に伴う施設からの悪臭の漏洩	ごみピット内空気を燃焼用空気に使用	P4-5-14
			プラットフォーム出入口扉にエアカーテンを設置	
			全炉休止時に使用する脱臭装置	
			ごみピット内を負圧に保持	
		気密性を高めた建物構造		
		廃棄物搬入車両の洗車場の設置と洗車の実施		
		悪臭漏洩の監視		
水象	供用後	存在・供用による影響	掘削面積、掘削深度の最小化	P4-7-17
			地下水取水量の最小化	
			雨水排水の地下浸透	
			緑地面積の確保	
土壌汚染	供用後	焼却施設の稼働	排ガス濃度の低減	P4-8-9
			排ガス濃度の監視	
			適正な排ガス処理の実施	
			適正な運転管理の実施	
	供用後	焼却処理残渣の排出・処理	場内での焼却処理残渣の積込	P4-8-12
			天蓋付搬出車両の使用	
地盤沈下	供用後	施設の稼働による影響	地下水取水量の低減	P4-9-5

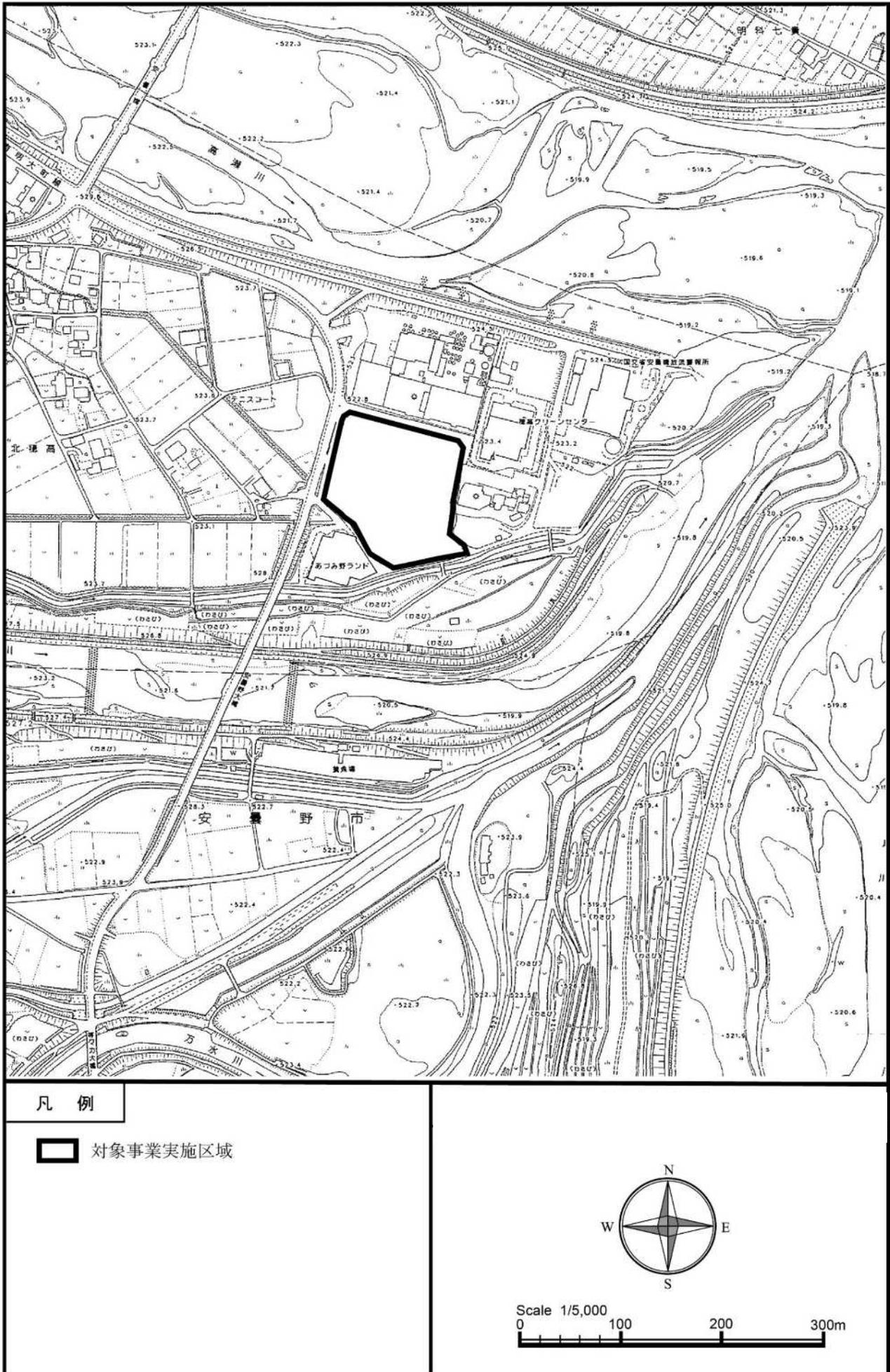
1.3 施設供用時における環境保全措置内容（2 / 2）

項目	実施期間	環境保全措置の対象	環境保全措置	評価書掲載頁
植物	供用後	存在・供用時の緑化による植物への影響	周辺環境に配慮した緑化	P4-11-19
			緑化率の確保	
			緑地の管理	
	供用後	存在・供用時の施設の稼働による植物への影響	排水の無放流 地下水取水量の最小化 夜間照明拡散の低減	P4-11-26
動物	供用後	存在・供用時の緑化による動物への影響	周辺環境に配慮した緑化	P4-12-32
			緑化率の確保	
			緑地の管理	
	供用後	存在・供用時の施設の稼働による動物への影響	排水の無放流 地下水取水量の最小化 夜間照明拡散の低減	P4-12-40
生態系	供用後	存在・供用時の緑化による生態系への影響	周辺環境に配慮した緑化	P4-13-18
			緑化率の確保	
			緑地の管理	
	供用後	存在・供用時の施設の稼働による生態系への影響	排水の無放流 地下水取水量の最小化 夜間照明拡散の低減	P4-13-25
景観	供用後	建築物・工作物等の存在に伴う景観資源・構成要素及び主要な景観	施設色彩等への配慮	P4-14-23
			施設形状等の検討	
			周辺景観と調和した緑化の実施	
触れ合い活動の場	供用後	建築物・工作物等の存在	施設色彩等への配慮	P4-15-22
			施設形状等の検討	
			周辺景観と調和した緑化の実施	
	供用後	ごみ搬入車両の走行	搬入時間の分散	P4-15-23
			交通規制の遵守	
	供用後	施設の稼働に伴う騒音、振動、低周波音及び悪臭	低騒音型の設備機器の使用	P4-15-27
			騒音の大きい機器の屋内配置	
			制振構造等の採用	
			低周波音発生機器の屋内への配置	
			ごみピット内空気を燃焼用空気に使用	
プラットホーム出入口扉にエアカーテンを設置				
全炉休止時に使用する脱臭装置				
ごみピット内を負圧に保持				
気密性を高めた建物構造				
廃棄物搬入車両の洗車場の設置と洗車の実施				
悪臭漏洩の監視				
廃棄物等	供用後	供用時における廃棄物	ごみ減量化	P4-16-7
			分別による資源の再利用	
			焼却残渣の適正処分	
			灰の飛散防止	
温室効果ガス等	供用後	自動車交通の発生に伴う温室効果ガスの発生	搬入時間の分散	P4-17-5
			交通規制の遵守	
			暖機運転（アイドリング）の低減	
	供用後	施設の稼働に伴う温室効果ガスの発生	ごみ減量化 熱回収による高効率発電	P4-17-8

## 2. 対象事業の実施状況に係る図面、写真

## 2.1 対象事業実施区域の位置図及び工事工程表

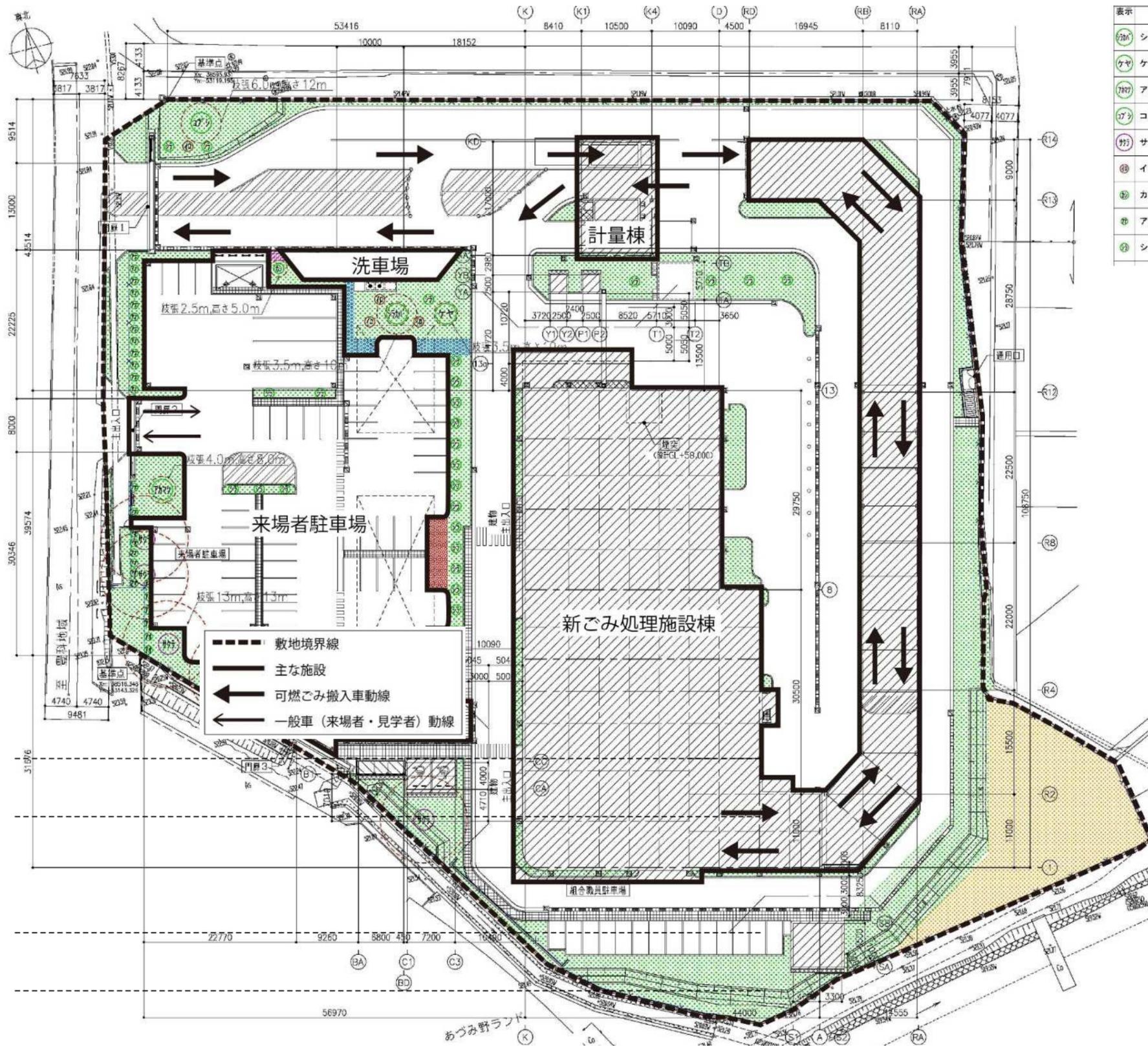
### 2.1.1 対象事業実施区域の位置図



2.1.2 工事工程表

		2018年度												2019年度												2020年度												備考			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		1	2	3
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
■全体スケジュール		★ 契約												設計・建設												引渡し												★	工事完了日:令和3年2月28日 供用開始日:令和3年3月1日		
■ 建 築 工 事	準備工事													▽2/21起工式																											
	地盤改良・造成工事													→																											
	建築工事													→												→															
	外構工事																									→															
■プラント工事																										→															
■試運転																										→															

2.2 全体配置図（施設概要含む）



表示	樹種	形状寸法 H C W	数量	単位	備考
714	シラカバ	3.5 0.15 1.2	1	本	二階鳥居支柱 池田町の植物 樹木銘板
715	ケヤキ	3.5 0.12 1.0	1	本	二階鳥居支柱 安曇野市の植物 樹木銘板
717	アカマツ	3.5 0.21 1.8	1	本	二階鳥居支柱 松川村の植物 樹木銘板
719	コブシ	3.5 0.15 1.2	1	本	二階鳥居支柱 麻績村の植物 樹木銘板
721	サクラ (ヤマザクラ)	3.5 0.18 1.5	5	本	二階鳥居支柱
722	イロハモミジ	1.8 - -	4	本	湧き柱
723	カシワ	1.0 - -	1	本	生坂村の植物 樹木銘板
724	アオキ	1.0 - 0.7	26	本	
725	シラカシ	1.5 - 0.3	28	本	

アベリア	0.6 - 0.4	240	株	4株/㎡ (A= 59.94)
アジサイ	0.5 - 0.4	145	本	3本/㎡ (A= 48.14)
サツキツツジ	0.4 - 0.5	14	株	3株/㎡ (A=4.48) 筑北村の植物 樹木銘板
張芝		2561.91	㎡	
自然緑地		568.45	㎡	
砕石敷				t=100

敷地面積		15,669.76 ㎡
地上緑化面積		3,534.64 ㎡
高木 (H2.5m 以上、H4m 未満)	9 本	72.00 ㎡
中木 (H2.5m 以上、H4m 未満)	59 本	224.20 ㎡
低木 (H2.5m 以上、H4m 未満)	-	108.08 ㎡
地被・芝生		2,561.91 ㎡
自然緑地		568.45 ㎡
<b>地上緑化率</b>		<b>22.56%</b>

< 施設概要 >

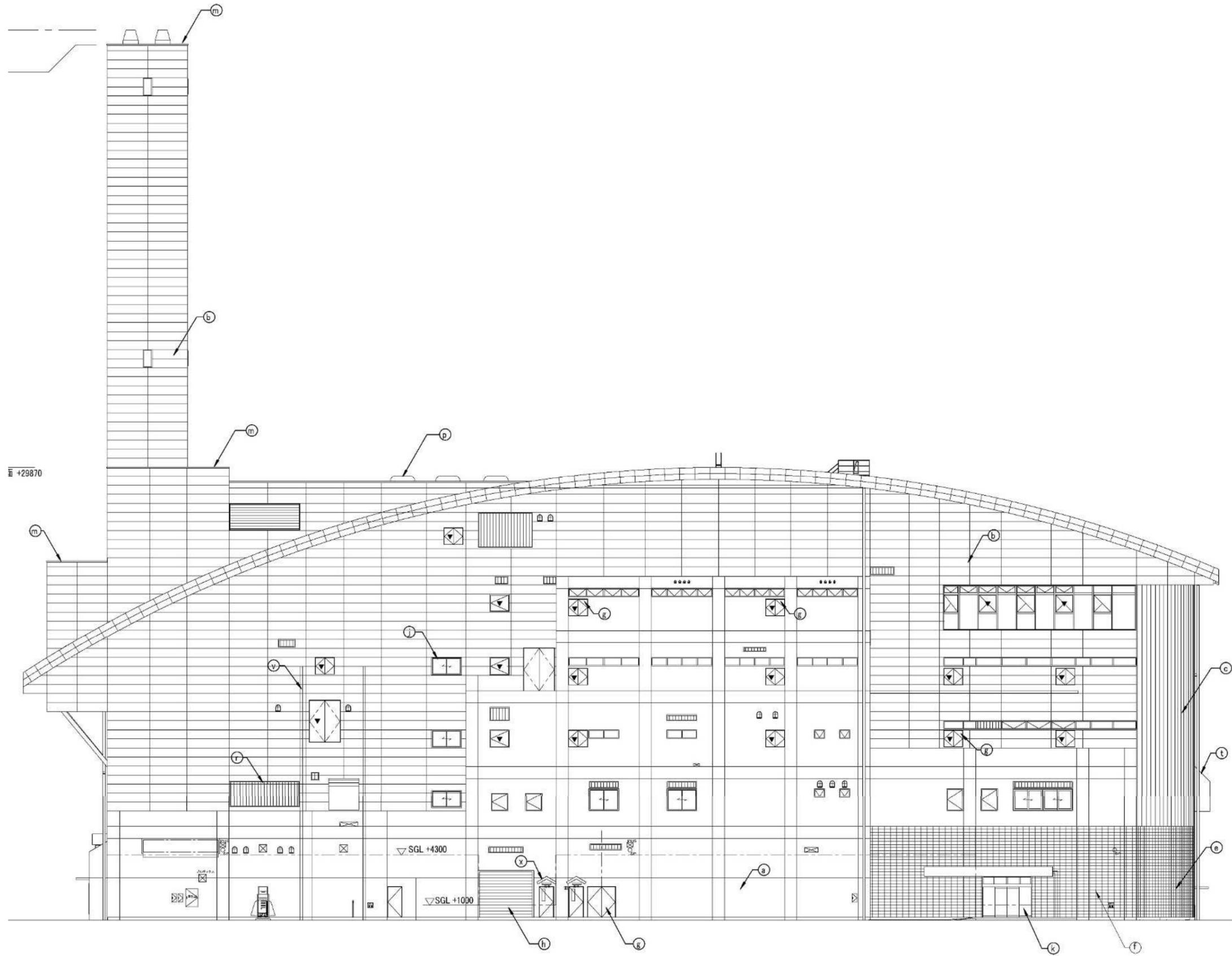
- 施設名称 : 穂高クリーンセンターごみ処理施設
- 事業方式 : DBO方式 (Design-Build-Operate)
- 施設規模 : ごみ焼却施設 120t/日 (60t/24h×2 炉)  
蒸気タービン発電機 3,000kW  
不燃物処理施設 3t/日
- 工期 : ◎建設工事  
平成30年4月11日～令和3年2月28日  
(JFE エンジ・武井組特定建設工事共同企業体)  
◎運営業務  
令和3年3月1日～令和23年3月31日  
(エコサービスあづみ野株式会社)
- 構造 : 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
- 階数 : 地上6階
- 建設費 : 100億4,400万円 (消費税込み)

【ごみ焼却施設】

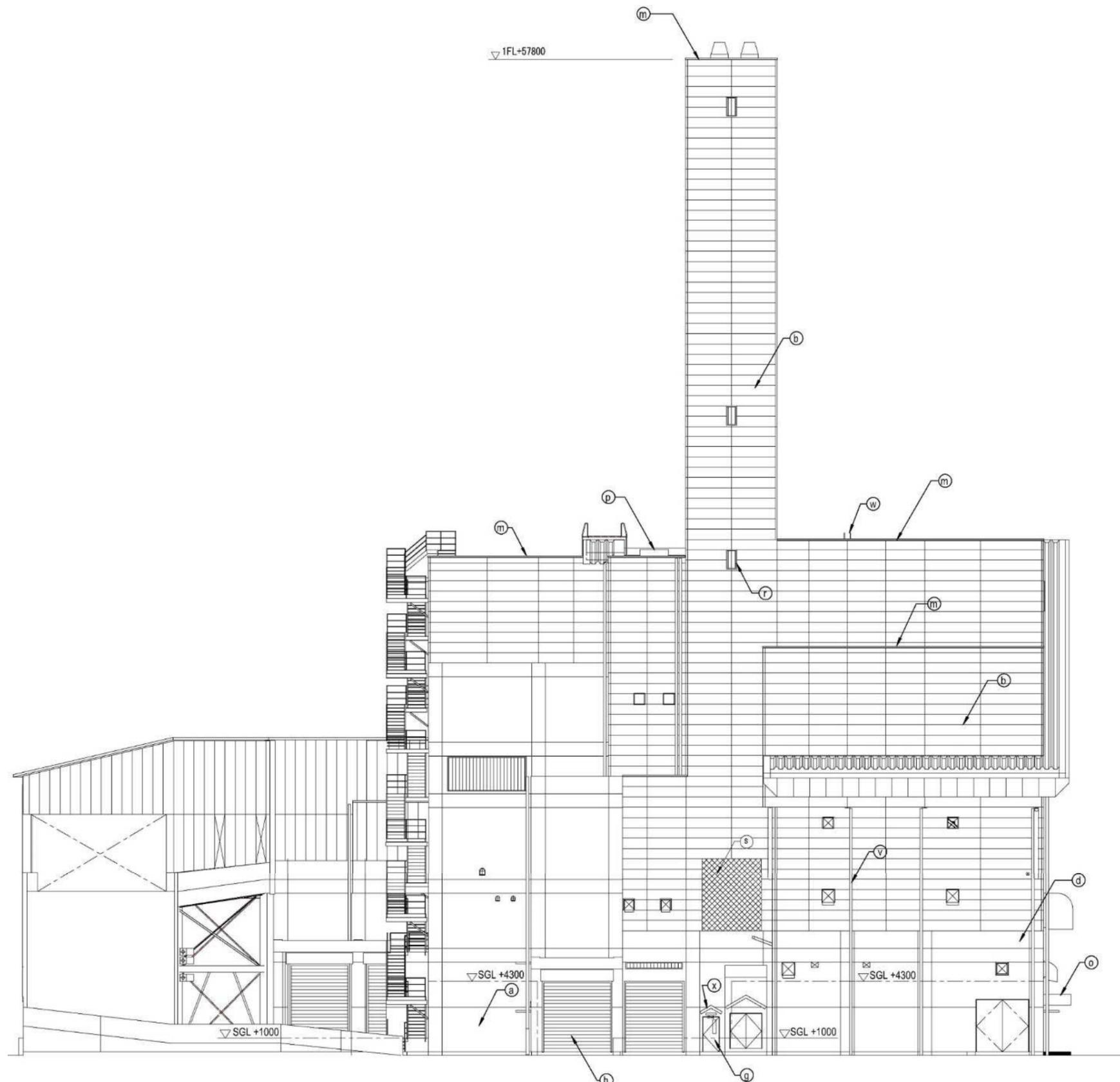
- 受入・供給設備 : ピット&クレーン方式  
可燃性粗大ごみ破砕機
- 燃焼設備 : ストーカ式
- 燃焼ガス冷却設備 : 廃熱ボイラ方式
- 排ガス処理設備 : 消石灰・活性炭吹込み、ろ過式集じん器
- 余熱利用設備 : 発電・あづみ野ランドへの温水供給  
ロードヒーティング (ランプウェイ)
- 灰出し設備 : ピット&クレーン方式
- 【不燃物処理施設】
- 破砕設備 : 低速回転破砕機
- 選別設備 : 磁選機・アルミ選別機

全体配置図

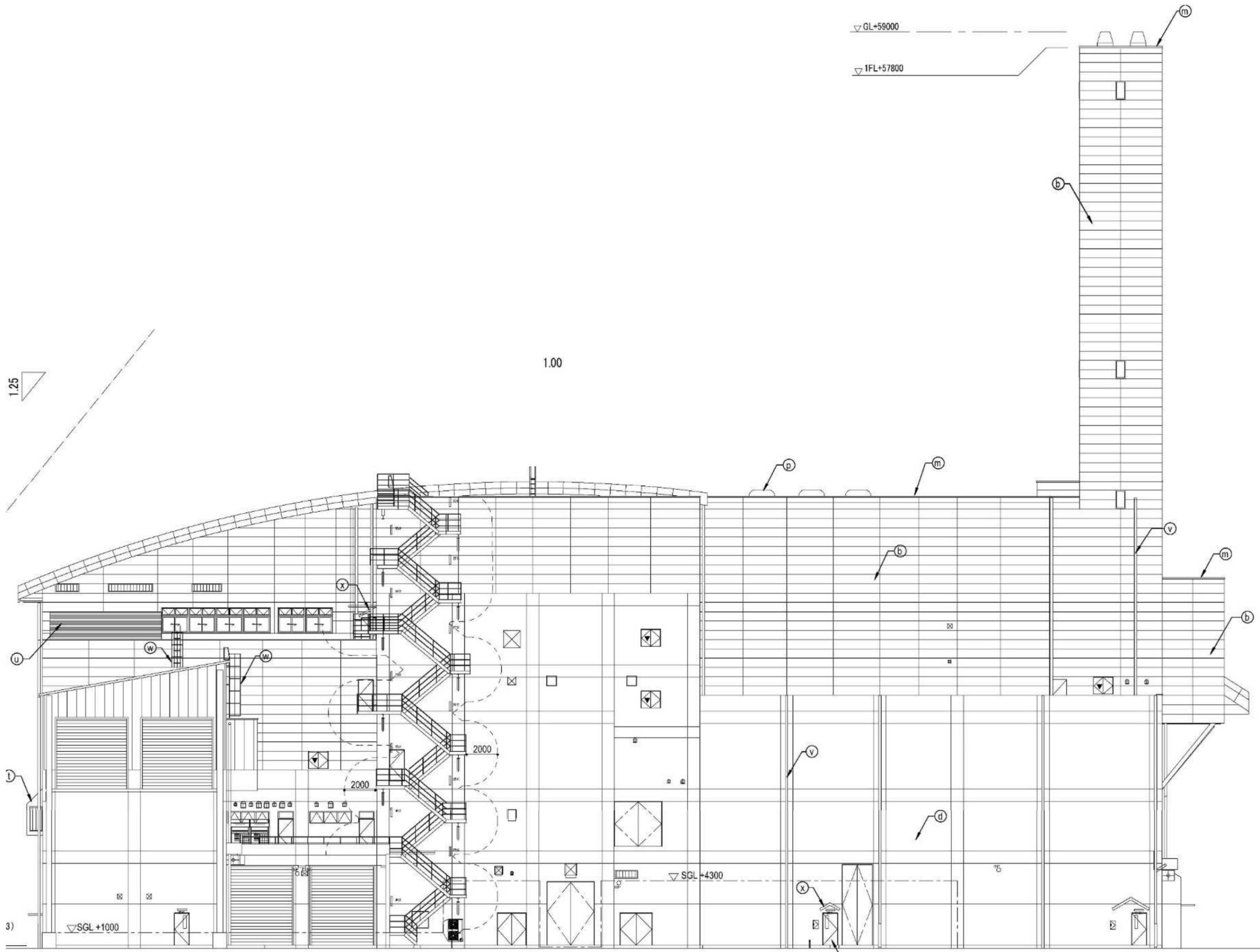
2.3 立面图 (工場棟)



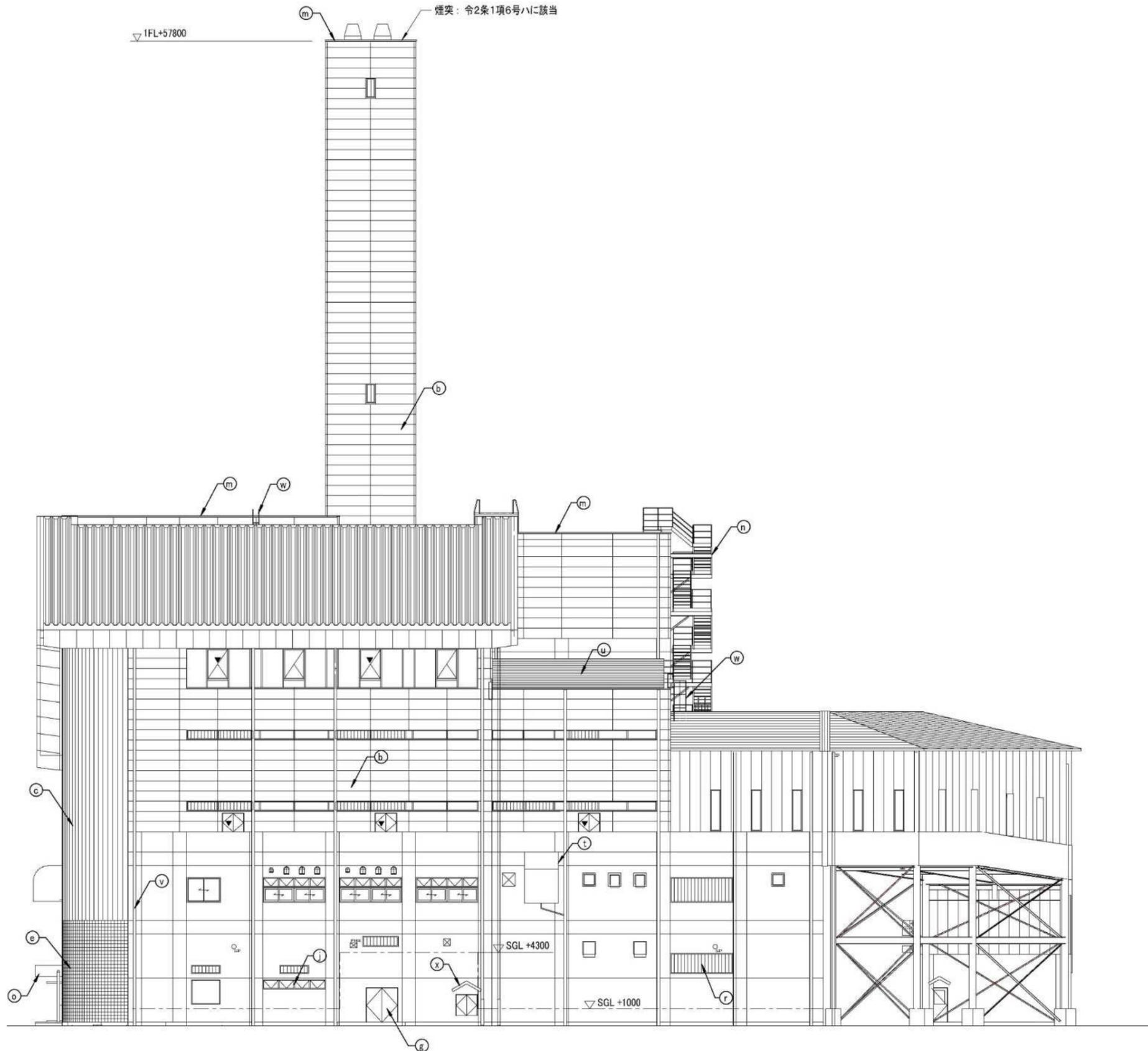
西面立面图



北面立面图



東面立面图



南面立面图

## 2.4 現況写真

令和3年2月6日撮影



施設西側より撮影（左奥が旧施設）



施設北側より撮影（右奥が余熱利用施設：あづみ野ランド）



施設南側より撮影（右奥が旧施設）



施設東側より撮影（左奥が余熱利用施設：あづみ野ランド）

## 2.5 主要設備の写真、フローシート

### 2.5.1 ごみ焼却施設の主要設備の写真



**プラットフォーム Platform**

収集車はここから受入ピットへごみを投入します。燃焼空気を隣接するごみピットから送り、気圧を上げています。更に、出入口に高速シャッターとエアカーテンを設け、臭気の外部漏洩を防いでいます。



**受入ピット・ごみピット Reception pit, waste pit**

受入ピットに投入されたごみはごみクレーンでごみピットに移され貯められます。ごみピットに貯められたごみは攪拌された後、ごみクレーンにてごみ投入ホッパへ投入されます。



**焼却炉 Incinerator**

850℃以上の高温で焼却を行い、ダイオキシン類などの有害物質の発生を抑制します。高温空気燃焼技術を導入することで、より少ない空気量でも安定した燃焼を行うことができます。



**ボイラ Boiler**

焼却炉から発生した高温の燃焼ガスの熱を利用して蒸気をつくります。蒸気を超高温高圧(6MPa, 450℃)とすることで、燃焼ガスの熱エネルギーをできる限り回収します。



**ろ過式集じん器 Filtration dust collector**

HCl, SO<sub>x</sub>除去剤と活性炭を吹き込んだ排ガスをろ過し、排ガス中に含まれる塩化水素、硫酸化合物等の有害成分を飛灰と共に取り除きます。



**蒸気タービン発電機 Steam turbine generator**

ボイラで発生した高温高圧の蒸気を利用して、タービンを回し、最大3,000kWの発電を行います。発電した電気は施設内で利用し、余剰分は電力会社に売電します。



**灰ピット・飛灰処理物貯留設備・灰クレーン**

**Ash pit, processed fly ash storage vessel, ash crane**

灰ピットに貯められた焼却灰と飛灰処理物貯留設備に貯められた飛灰(薬剤処理後)は、灰クレーンで搬出車両に積み込まれ、場外へ搬出されます。



**中央制御室 Central control room**

プラント設備全体の運転状況を集中監視および制御しています。各設備はコンピュータシステムにより自動運転されています。

## 2.5.2 不燃物処理施設の主要設備の写真



**不燃物ヤード** Incombustibles yard

搬入されたリサイクルの対象とならないもえないごみ（ガラス・陶器類）を一時貯留し、ここから不燃物受入ホッパへ投入します。



**回転式破碎機** Roller crusher

低速回転する二つの刃でゴミを破碎し、その後の処理をスムーズにします。



**不燃処理施設用磁選機** Magnetic separator for incombustibles processing

回転式破碎機で砕いた破 碎物から磁石の力で鉄類を回収します。



**粒度選別機** Particle size sorter

磁選後の破碎物を回転する円筒のふるいにかけて、粒度差により分別します。さらに比重の小さい可燃物を吸引することで、その後のアルミ選別をしやすくします。

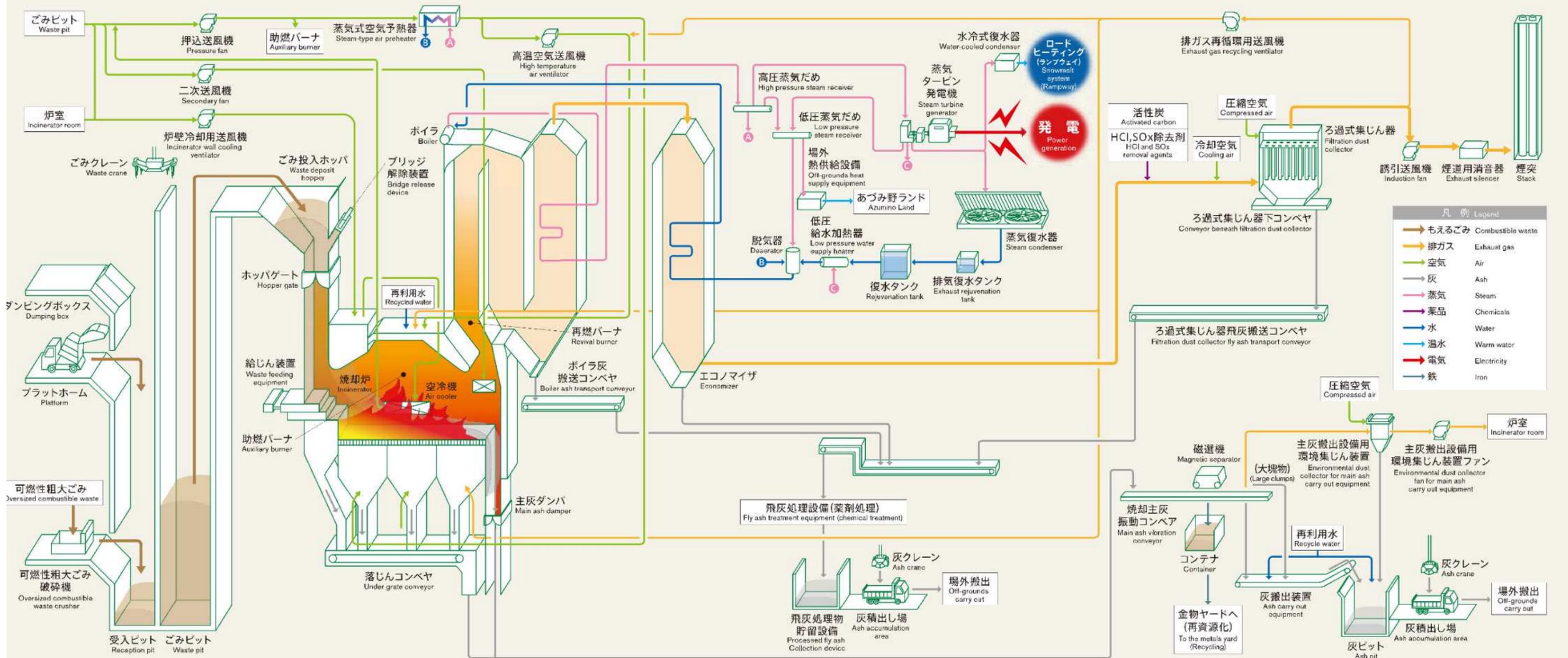


**アルミ選別機** Aluminum sorter

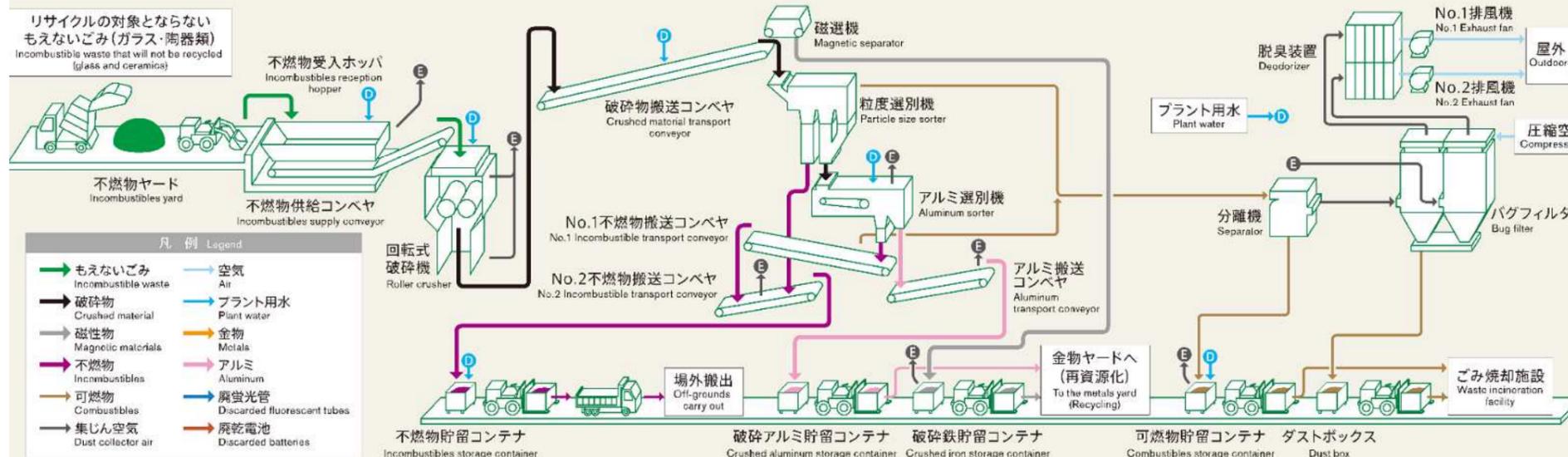
回転する磁石の上をアルミが通ると渦電流が発生する現象を利用して、アルミを回収します。

2.5.3 フローシート (ごみ焼却施設、不燃物処理施設)

ごみ焼却施設フローシート Waste Incineration Facility Flowchart



不燃物処理施設フローシート Incombustible Processing Facility Flowchart



一時保管 Temporary Storage

